

2021年7月じゃおサロン

ZOOMによりリモート落語を開催しますので奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。噺家は横浜在住の桂歌助師匠にお願いしました。演目は「試し酒」と「ラーメン屋」の二席を予定しています。

日時： 7月25日（日）

14時30分 開場（※ 14時30分にZoomにログインしてください。）

15時 開会（途中、10分程度の仲入りを予定しています。）

16時 お開き

※ ご参加の方は14時30分にZoomにログインしてください。最初にリモート落語への参加について注意事項などをご説明した後、主催者挨拶を経て15時開会の予定です。

桂歌助師匠のプロフィール

本名： 関口 昇（せきぐち のぼる）

生年月日： 昭和37年9月19日 新潟県十日町市に生まれる
新潟県立十日町高等学校を経て東京理科大学数学科
卒業

芸歴： 昭和60年12月 師匠桂歌丸に入門、歌児となる
昭和61年5月 前座
平成2年6月 二ツ目に昇進、歌助に改名
平成11年5月 真打に昇進

出囃子： 十日町小唄

家紋： 丸に三つ柏

著書： 平成30年7月

「師匠 歌丸 背中を追い続けた三十二年」



2021年6月じゃおサロン報告

6月5日(土)午後3時から、「アフリカにダンスと太鼓を習いに1か月行った話」と題して、じゃお県央の戸ヶ崎正次さんによる講演が始まりました。参加者は15名でした。

戸ヶ崎さんは趣味としてジャズピアノ、ダンスを学んでおられます。サロン講演当日は、カラフルな民族衣装を着て、ZOOMによるご自宅からの講演でした。

ジャズの先生から、リズムを知るにはその源流であるアフリカで、現地の音楽やダンスを体感するのがベストとの誘いを受け、2016年、先生と共にアフリカ西海岸のギニア共和国(アフリカ大陸で大西洋に一番突き出た国で、旧フランス植民地である)に行きました。日本からはパリ経由です。首都コナクリのギニア人ダンス教師宅に1か月滞在し、国立ダンス学校で学びました。

ギニアは鉱物資源に恵まれた国ですが、世界でも最貧国のひとつです。しかし現地の人たちは陽気で、全く見知らぬ人にボンジュールと言うと必ず挨拶を返してくれる気さくな人柄は、アジアの旧フランス植民地とは違う親近感を抱いたそうです。

熱帯生まれの逞しいリズムと、それに合わせたダンスを、若者と一緒になって堪能しました。また、結婚式では、練習を重ねたジャンベ(伝統の太鼓)を披露できました。

この旅行を終えた戸ヶ崎さんの感想は、① アフリカでもアジアでも付き合いえば人はみな同じ、② お金に対する考え方が変わった。金のある人がまず支払うことを習慣とする国が多い。③ 自分がギニアの大統領になったとすれば、まず教育から変えてゆく、④ ジャズ、ボサノバ、レゲエはすべてアフリカのリズムであると実感した、というものでした。

講演後の意見交換でも、若いころからバンド演奏の経験のある方から、ギニアの音楽からジャズの4ビートをはっきり聞き取れ、確かにジャズの源流がアフリカにあることが実感できてよかったとの感想が話されました。

(県央 今村 義宏 記)

事務局だより

1. 会員動向

6月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
37	32	32	26	127名 (Eグループ会員: 113名)

7月1日付入会予定者 木村 浩氏(湘南)
新保 英毅氏、及川 最介氏(多摩・田園)

2. 運営委員会報告

6月は、運営委員会は開催されませんでした。

3. 次回の運営委員会予定

7月25日(日)10:00~12:00 オンライン形式での開催予定です。

議長: 竹内委員 書記: 永井委員

魚と俳句

湘南 二山 孝

2010年4月にじゃおクラブ（湘南）に入会、すぐに農園に参加しました。6月には、廣崎龍哉氏に「畑に参加する人は俳句をすべし。お酒が好きな人は更なり。」と半ば桐喝されて「四木会」に入会し今日に至っています。何事も継続が大切と、3年、5年、10年と節目節目に続けるかどうかを判断してきましたが、幸いにも続いています。俳句の魅力は、詠むと読む楽しみの他に句会や吟行さらには懇親会での句友との交流も加わります。そして私にとっては「歳時記」との出会いがあります。ご存知のように「歳時記」は1年を春・夏・秋・冬と新年に分け、さらに多くの季語を時候・天文・地理・生活（人事）・行事（宗教）・動物・植物に分類しています。そしてそれぞれの季語の本意を生かした例句を掲載しています。従い俳句の辞書的な役割に加え、読むだけで楽しい百科事典的な要素もあります。歳時記を中心に俳句を世界無形文化遺産に登録の運動もあるくらいです。

さて、食にかかわる名句は数多くあります。食材には旬があり、又、地域にはその食文化があります。例えば季語になっている魚もたくさんあり、主なところで春の「鯊」と「鱈」、夏の「鰻」と「鱧」、秋の「秋刀魚」と「鰯」そして冬の「河豚」と「鮫鱈」などです。とりわけ「鮫鱈」には面白い俳句が多いように思います。鮫鱈はご存知のように大きくてグロテスクな魚で、「吊るされて」捌かれ、部位は7つ道具（肉、肝、水袋一胃、ぬの一卵巣、えら、ひれ、皮）に別けられ、最後は主に鍋の具材となります。ちなみに歳時記では「鮫鱈」は「動物」、「鮫鱈鍋」は「生活」の項目に配列されています。

吊されて鮫鱈らしくなりにけり	亀田虎童子
吊されし鮫鱈何か着せてやれ	鈴木鷹夫
鮫鱈の骨まで凍ててぶちきらる	加藤楸邨
鮫鱈もわが身の業も煮ゆるかな	久保田万太郎

夏の魚では「鱧」も多くの句があります。鱧は特に関西の夏祭りや夏料理には欠かせない魚です。小骨が多く骨切りという技術（プロの料理人は1寸に25本の切れ目を入れる）が必要です。「祭鱧」や「鱧の皮」も夏の季語です。

鱧を焼く匂ひも錦小路かな	木内怜子
なりふりの大事な日なり祭鱧	宇多喜代子
鱧の酔や満座の酔に酔はずをり	能村登四郎
大粒の雨が来さうよ鱧の皮	草間時彦

魚といえば肴、肴といえば「酒」。季語になったものも多く、正月の「屠蘇」「年酒」、春の「花見酒」、夏の「ビール」「焼酎」「冷酒」、秋の「新酒」「濁り酒」、冬の「熱燗」「鱈酒」「玉子酒」「寝酒」など。名句もたくさんありますが、紙面がつきましたので又の機会に致します。これからも俳句を続け、名句は到底無理なので、出来るだけ佳句を作りたいとの気持ちで精進致します。

突然 家事を代行して感じた事

県央 野木 幹夫

昨年秋、普段元気な妻の足が突然原因不明の筋肉痛を起こして歩行困難となり、家事を行う事が難しくなりました。今まで病気一つしたことが無い妻に甘んじて、家事は庭の草むしり程度しかしなかった酬いでしょうか、慣れぬ事とはいえ私が担当する事となりました。まず困惑したことは妻と二人のささやかな家でも、調理、部屋の掃除、トイレや風呂場の清掃、洗濯、買い物、ゴミ出し、布団敷き等々10指に余る家事の多さでした。不慣れな私に何処まで出来るのか不安でいっぱいでしたが、やるしか無く妻の助言を受けながら挑戦し、失敗もいろいろとありましたがこの半年を何とか凌いできました。

今思い出しますと、初めの頃はスーパーマーケットへの買い物にしても今まで店に入ったことが無いので、妻に渡された買い物メモと一緒に書いて貰った店の配置略図を手に出かけましたが、案の定、置き場の分からぬ品が多く店内をうろうろし店員さんに何度も聞く始末でした。肉売り場にしても部位や値段、賞味期限など様々の表示に、選ぶ知識が無い私は手じかの物から籠に入れて帰りました。洗濯は洗濯機がボタン一つ押せば、後は自動でやってくれるので、簡単な家事と考えていましたが、実際には押しボタンが六つ並び、量、内容によりボタンで調整してからスタートさせると知り、妻にボタンを押す順序を書いてもらったメモを頼りに操作をし、何とか覚ええました。ゴミ出しにしても、海老名市の生ごみは有料なので、その日の量により有料袋の大きさを選んだり、資源ごみは市の資料で曜日別に選別し集積所へ運ぶ事も学びました。そんなこんなで素人のやることですから失敗もいろいろとありましたが、何とか半年代理を務めることができました。最近の妻は治療とリハビリのおかげでかなり回復し、近所の散歩や家事も大分出来るまでになりました。諸兄からは今更何だ！とお叱りを受ける話ではありますが、私は今回の体験で妻の行っていた家事の多さ、大変さを改めて知りました。これからの余生、家事は分担しあい私に出来る家事は進んで行なおうと心に刻んだ次第です。

巣籠り

ベイサイド 仲地 唯通

例年だと年度末から年始にかけて我が家の定例行事で旅行に出掛けるのであるが、昨年3月より流行し始めた新型コロナウイルス（COVID-19）が未だ衰えず（逆に変異ウイルス型に変わり感染力が強まる）外出に躊躇している。

緊急事態宣言発令に伴う不要不急の外出自粛要請でますます巣籠り状態に成ってしまう。例年だと4月以降は一か月に5から6試合は野球観戦に行く処だが、今年は開幕してから3か月半たっても8試合で、観戦に行っても声出し、タオル振り、知人とのハイタッチも禁止である。球場に入場する前に検温、アルコールによる手の消毒、球場内ではマスク着用が必須である。現在、都内等では入場人員の制限で5千人または50%以下に抑えられ、座席も間隔を空けて（一人空け）座るが、続けて座って居ると場内の係員が間隔を空けるよう注意しに来る有様である。

野球観戦以外ではじゃお湘南の農園へ。（行く際は公共交通機関のバス、電車を利用し、吊り革等は掴まない様に心掛けているが、どうしてもその時は銅製アシストフックを使用）参加した際は農作業時、出来るだけ密集を避け行っている。野球観戦と農園参加以外は通院のみで殆どが家庭内の生活で、万歩計を見ると一千歩未満の時が多々在る。お医者に散歩位はと注意される有様である。万が一外出する際はカバンへ予備のマスク、消毒用アルコール、ポケットへはアシストフックを持参し出掛ける有様、早く新型コロナウイルスが終息してもらいたいものである。

処で予防接種の方も一向に始まる様子もない。やっと予約開始が始まったと思ったら予約が殺到し、なかなか繋がらない。挙句の果てはサーバーがパンクし予約ストップである。私は幸いに予約開始日に運良くインターネットを利用して取れ、ラッキーであった。5月27日に1回目の接種が終わったが、2回目の直前になって体調が思わしくなく、キャンセルを余儀なくされてしまった。早く接種を済ませ何時もの生活に戻りたいものである。他愛もない事を書いてしまいました事をお詫び申し上げます。

皆様方にあらせられましては呉々も体にお気を付けくださる様願う処です。

【編集担当注】本文中で紹介されているアシストフックについて詳しくお知りになりたい方は、ブラウザの検索画面に「アシストフック コロナ対策」と入力して検索ボタンを押せば様々な製品のページが表示されます。

【じゃおベイサイド】

大山街道を歩く〈柏尾道〉（その2）

5月9日(土)、「大山街道〈柏尾道〉を歩く（その2）」を実施。コロナ禍での自粛生活にお疲れ気味の皆さん、久しぶりの野外行事に12名の方の参加がありました。今回のコースは昨年10月に実施の「戸塚～長後」に続く第2弾「長後～相模川の戸田の渡し（門沢橋）」でした。

コースは長後駅を出て旧道沿いにひたすら西へと進む。長後の街を出ると緩い下り坂で右前方に大山が見えてくる。引地川を渡りいすゞ工場横を通り、東山田交差点で左の旧道に入る。さすが旧道、門構えの立派な家を左右に見ながら歩を進め、御所見小学校横、用田辻（交差点）を越えて東海道新幹線高架をくぐる。目久尻川を渡り、橋のたもとの本郷公園で小休止。

水分補給後、緩い坂道を上り段丘の上に出る。富士ゼロックス工場の角を左折して南下、居合地区を右折、左折、右折を繰り返して西向きに進むと居合坂。そのまま旧道を西に進み、JR相模線を越えて門沢橋地区に入り今回の目的地、相模川（戸田の渡し場）に到着。

河川敷は夏草が生い茂り残念ながら前進を諦め、河岸のコンクリート階段に座り、緩やかな相模川の流れの向こうに大山を眺めながらの昼食をとりました。途中、新しい靴で血豆に苦しんだ方もいましたが、約12km、19000歩、4時間のウォーキングを無事終了、お疲れさまでした。

今回も、明治時代初期に作成された「迅速測図（2万分の1）」を参考に、現在の「地理院のGSI Webマップ」上で旧道をトレース、多くの道標（「従是ふぢさわえのしまへの道」、「従是かしをとづかへの道」・・・）、道祖神、石仏を確認することが出来ました。

大山街道〈柏尾道〉を歩く、次回は「戸沢橋～伊勢原」の予定です。

（ベイサイド 諏訪 記・写真）



令和3年6月度グラファーズ撮影会

今回は、6月1日、相模原公園と麻溝公園で旬の時期を迎えたショウブやアジサイなどを撮影に行きました。コロナ禍が収まりきってはいないのですが、十分感染予防対策を行いつつ、いつも実施の食事をしながらの反省会は中止としました。

花の撮影は、いつもそうですがまずは被写体となる良い花を見つけます。当然人により良い花？というのは変わりますが、自分としては色が鮮やかで形が整っているのが好きです。当然その逆で色の落ち着いた控えめな花をめぐる人もいると思います。

花が決まれば、写真の構図を考えます。近接撮影で花の一部を切り取ったり、一つの花の全体を狙ったり、多数の花の群生を写したり色々考えられます。

そしてその花を画面のどの位置に持ってきて撮影するか考えます。中心に持ってきていわゆる日の丸構図にするか、あるいは画面を3分割してそのライン上に置くか、また横向きの花なら向いている方向に空間を多くとるとか、左右対称に撮れるかなとかいろいろ頭を使い悩みながらシャッターを切るようになります。

今回は、ハナショウブがたくさん咲き色も形も気に入ったので、こちらを中心に撮影しました。先に書いたように、一つの花をアップで撮りバックをぼかしたり、花が並んで咲いている情景を撮ったり、大きくワイドに無数の花を撮ったりしてみました。

だんだん衰えつつある、自分の脳を色々使い活性化させながら撮影に臨んだ次第です。

ここに紹介している私の写真は、ハナショウブにしては珍しい黄色い色をしており、撮り方により斜めに整列させられたので、気に入って撮影したものです。



グラファーズの撮影会は、オープン参加歓迎です。少し長めの散歩と若干の頭脳の活性のため、ぜひご参加ください。

また、グラファーズメンバーの力作もホームページにアップされているので、ぜひご覧ください。

<https://jaoclub.com/tama-denen/gallery/>

(多摩・田園 露木 茂良 記・写真)

あじさい咲く府中市郷土の森博物館～仲間と街歩き～

6月15日(火)は多摩・田園の「仲間と街歩き」でした。行き先は府中市郷土の森博物館です。緊急事態宣言下とあって参加人数は4人、しっかりした感染予防対策のもと小人数で開催しました。

ご存知の方も多いと思いますが、府中市郷土の森博物館は、広大な公園内に博物館としての展示があり、四季折々の花を見ることができます。本来ならこの季節には「あじさいまつり」が開催され、出店する屋台や数々のイベントでにぎわいを見せます。しかし、今年は緊急事態宣言下となったため、5月31日まで臨時休館となり、6月1日から開館されたばかりでした。

朝の混雑を避けるため、待ち合わせはちょっと遅めの10時半です。参加メンバーはバスが出る最寄り駅、分倍河原に集合しました。まずは、近くのコンビニでお弁当やお茶を買い求めます。

目的地の府中市郷土の森博物館に入ると、すぐに様々なあじさいを寄せ植えにした花壇がありました。変わった品種も混じっていて、豪華な彩りに気分が上がります。あじさいは品種を生み出しやすいのですね。まずはあじさい咲くエリアを目指して歩くことにしました。一番多い西洋あじさいに加えて、ガクアジサイ、原種系のヤマアジサイ、八重咲など、色も一般的な青や紫、赤だけでなく、ピンクや白と種類豊富で楽しめます。一行からは「アジサイは種類が多いね」などの声も聞こえてきます。歩を進めるうちにアジサイの中にたたずむ水車小屋を発見。どうやら近くに移設されている古民家を含めた屋外展示の一環だったようで、武蔵野の風景をイメージした展示でした。

その後は、いったん休憩所のあるエリアまで戻り、みんなでお弁当タイム。普段でしたら売店で買えるビールやお酒は販売休止中とのこと。ちょっと残念でしたが、気を取り直して4人でお弁当にしました。

お弁当の後は、さらに歩いて薄緑～白のあじさい、アナベルの咲く丘へ行きました。タイミングはドンピシャリ。早くもなく、遅くもない一番きれいな状態のあじさいを見ることができました。(写真は「アナベルの丘」にて)

さらに、復元された建物を見て回ります。建物の周囲にも赤や青のアジサイが咲いていて美しい風景です。ちょうど見終わってバス停に着いたらバスが入ってくるころ。15時頃には分倍河原駅まで戻ることができ、夕方の混雑も避けて帰ることができました。



(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)